

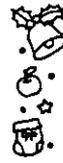


やまびこ

クリスマス特大号

発行 地域療育相談室
 広島市安芸区上瀬野南
 1丁目338-3
 TEL (082) 894-8958
 FAX (082) 894-0403
 広島県安芸郡府中町青崎東
 7-12
 TEL (082) 282-6500
 FAX (082) 282-4981

将来のすてきな(?)生活



柏学園 金丸博一



今回からは知的にハンディを持つ人のこれからの生活について考えてみたいと思います。学校を卒業してからの生活は、こどもたちが皆、夢を描いていくのと同じように、現実の地域社会の中に、希望の持てる生活が数多く転がっており、実現が可能であることを具体的に提案してみたいと思っております。



○Aさん(二十五才、男性。軽度の知的障害と診断を受けています。Aさんは御両親と一緒に暮らし、御兄弟は兄が一人、妹が一人いますが、二人共に県外にて生活をしています。Aさんの家は市街地であり、近くには大きなショッピングセンターなどがあり、人通りの多い所です。

Aさんは、自分の意思を伝えることは、大体は言葉でできます。一人での外出も可能ですし、買い物もできます。学力的には小学校の二、三年生くらい

のレベルです。趣味はTVゲームです。ゲームのおかげで字を読めるようになりました。(小学生の頃は、好きなビデオを繰り返し観るくらいで、どこに行くにもお母さんと一緒にないとダメで、誘われないとボウツとして一日を過ごす方でした。表情も乏しく、人に言われないと、トイレにも行かないところがあり、学校では一時間かけて、書字(なぞり書き)をプリント一枚するくらいの、スローなところのある方でして、ゲームのおかげで、よく会話ができるようになりました。中学生の頃にはカードゲームにはまり、ルールを理解し、勝ち負けにこだわるようになりました。

高校生の二年生の頃は、「卒業したら何の仕事がしたい?」ときくと、「保育園の先生になりたい。」と言いました。保育園は遊ぶところ、子供と遊ぶことは自分にはできると思ったようです。そこで小学生三、四年生の漢字や計算のプリントを何度も行い、今の実力をわかってもらおうとしましたが、やはり気持ちは変わっていませんでした。

そこで、保育士の試験問題を何度かやりました。難しい言葉がたくさんできて、困ったようでした。「保育園の先生の手伝いがしたい。」「力はあるから、荷物は運ぶ。」「そうじとか片付けをする。」と言うようになりました。

ほかにできそうなことも一緒に考えてみました。かなりゆつくりにはなりますが、パソコンで文書を作ることにして、きれいな字の下書きがあればできます。絵はまだドラえもん顔を描いてもらっても、何とかそれらしくは見えるというくらいですが、色ぬりはい



われた通りをていねいにこなすことができます。印刷やプリントを整理していくこと、写真の分類・整理についても経験させました。特に行事のあとの園児の写真を購入することに整理していくことは、幼稚園・保育所では大変な作業となりますが、充分理解をして手伝うことができるようになりました。

彼の「保育園の先生になりたい。」という気持ちは「保育園の先生の手伝いをする。」ということでも叶えられるのではないかと思いい、その点を中心に卒業後のプランをたてました。すっかり成長した、彼の一週間の生活を紹介します。

○月曜日、彼が卒園したP保育園への出勤です。家からは歩いて十分です。八時二〇分には園に到着し、まず玄関まわりの掃きそうじから始まります。十分くらいで終わり、次は窓ふきです。彼には玄関まわりの窓全部と一階の外側の窓を全部担当してもらっています。高い位置の窓ふきの時は、「はくは背が高いから届くよ。」を口癖のように先生方に声をかけ、「助かるよ。ありがとうございます。」と言ってもらい得意気です。十時まではその仕事をして、休憩タイムです。P保育園は社会福祉法人立の保育園でスタッフの転勤がなく、園長先生と主任の先生は、P保育園にAさんがいた時から知っています。休憩タイムでは、昔話に花を咲かせることも多く、園庭でこけて膝をすりむいた時や教室に一人でいた時に、先生から優しく声をかけてもらったことを何度も話してくれるようです。運動会の際に、リレー



でAさんが走らずに、二人の先生が両手を引きずるようにしたことや、発表会の時に、舞台上ですつと寝転んでいたことなどの話を先生がすると、Aさんは「忘れしました。」と言います。

休憩のあとは、事務所での仕事です。園日よりやクラスだよりのイラストに、色えんぴつで一枚一枚色ぬりをしていきます。先生は、見本を一つ作っておけばOKで、百二十人の園児分を全部こなしてもらおうこともあります。先生はAさんの色ぬりのペースはよくわかっていきますから、どんなイラストだどのくらいの時間でできるかが予想できるようになりました。中途半端なところで、色ぬりが終わると却って、先生の仕事が増えることもあったため、今は先にイラストだけを印刷し、好きなだけ色ぬりをしてもらってストックし、後で文面だけを印刷していくことにしました。発表会など大きな行事の時のプログラム作りでは、係の先生は出来るだけ早くプログラム作りの案を出し、Aさんのできる仕事をつくっておく工夫をしているようです。

昼食は今年に入って、年長児(五才児)のクラスと一緒に食べるようになりました。子どもたちはAさんのことを背が高いからか(一七九cm)「デカデカマン」とか「デカおじさん」とか「ノッポさん」と以前は呼んでいる子も多く、「何の先生なの?」とか「誰のおとうさん?」と先生に尋ねてくる子もいました。先生たちは話し合いを続ける中で、名字を「さん」付けて呼んでもらうことと、「先生たちの仕事のお手伝いをしてくれる人」と説明することを決め、100歳



ん」という言い方が定着したところで、食事は一緒にしてもらうことにしました。黙々と食べて、担任の先生に「Aさん、次の仕事をお願いします。」と言われらるまでは、園児のイスにじつと座っていました。頃はTVゲーム好きな子のグループで食べて、「○○のゲームを持っていますか?」とか、「ぼくは○○を全クリ(全部クリア)しました。」とか、こどもに話すようになりました。興味津々の子が二人いてAさんの話をきいて「すごい!」とか、「Aさんって、ゲーム上手なんだよ。」と他の子に話す場面も出てきてるところです。

昼食の後は、晴れの日には園庭の清掃で、雨の日は、ホールの清掃です。園庭はゴミ袋を持ってゴミ拾いをしてもらい、次は、竹ぼうきで園庭をならしてもらいます。足跡一つないくらいきれいな地面にしてくれます。その後は、砂場での山づくりです。砂場の真ん中に大きな山を作ってもらっています。子どもの何人かは、Aさんが来る日は午睡の後に砂場に山ができていたので、夕方の園庭遊びを楽しみにしています。枯れ葉の落ちる季節は、仕事が多く、時間を気にして「○ちゃん山ができてきているのを楽しんでいます。」を連発しています。

一五時三〇分には今日の仕事は終了です。以前は午前中で終わっていたのですが、一昨年の四月から、この時間までしてもらうことにしました。今年あたりからは、「時間になったから今日は終わりにしましょう。お疲れさまでした。」と先生が声をかけるまでは、作



業を続けていることがあります。時間になると、さつさと帰っていたAさんでしたから、先生たちはもう少し仕事を増やそうかな、と考え始めているところだそうです。

帰りは近くのショッピングセンターに寄っています。本屋と玩具コーナー(ゲームソフトの所)とゲームセンターをウロウロし、気が向くと「インシヤルド」というドライビングゲームをやっているようです。

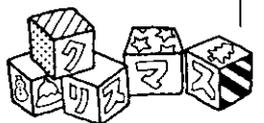
一七時三〇分くらいには帰宅し、二時過ぎの就寝まではダラダラと過ごしているようです。「今日は忙しかったんだよ。」「○○ちゃんと話をしたよ。」とお母さんにはよく話をしてくれるとのこと。

○火曜日 今日、Q幼稚園への出勤です。

Q幼稚園はカトリック系の幼稚園で、P保育園で身につけていった仕事振りを三年前にQ幼稚園の神父さんに話したところ、「うちの方にも来てもらいましょう。」ということになりました。

初めは教会の建物を中心に窓ふきをやってもらっていましたが、今は園児の出入りする門や、園の周辺の清掃もまかされるようになりました。なぜなら、園を訪れる保護者の方や近所の方にAさんから、進んで挨拶をしてもらえるようになったからです。やはりAさんは人前での作業の方が楽しいようで、声をかけられる機会の多い場所であるほど、調子良く、頑張ってくれます。Aさんにとって、正門での朝の清掃は、仕事振りが認められての「格上げ」なのです。

九時過ぎには図書のコナーの整理です。Aさん用



に図書の棚が一段ずつ写真に撮ってあり、それを見ながらきれいに並びかえています。横倒しになっている本が多いと、「困りますねえ。」とブツブツ言いながら、棚に本を入れ直しています。近頃は貸し出し用の本が、期限が切れているのに返却されていないと、それを書き出してくれるようになりました。

その後は園庭の草取りです。初めのうちは、この草取りの作業はなかなかかどりませんでした。「何時までやればいいですか？」とか、「たくさん抜きました！」と言って事務所の先生に報告することが多かったのですが、「ここからここまでの草を取って下さい。」と線を地面に書いて頼むようになってからは、集中して黙々と抜いてくれるようになりました。

さらに草抜きが終わると園バスの車内清掃もお願いしています。この車内清掃については、Q幼稚園に行くようになってから、五ヶ月程ヘルパーさんに来てもらい、一緒にやってもらいました。洗剤をつけて拭き取る所やその拭き取り加減、窓ガラスを水拭きして空拭きの仕上げをすること、車内の床そうじの仕方等をみっちり教えてもらいました。指示を出さなくても一人でできるようにしてから、ヘルパーさんに離れてもらいました。以後はずっと一人でやっていますし、時には運転手さんと一緒に園バスのボディ洗いやることがあります。

事務所で持参の弁当を食べると、Q幼稚園の仕事は終了です。「お先に失礼します！」と各教室の先生に挨拶をし、子どもたちにも声をそろえて「ありがとうございます。」といわれて、満足そうに園を出ます。

Q幼稚園の仕事が終わると、県立体育館にあるスポーツジムへ行きます。まずはロビーにあるソファへ直行し、しばらくはTVを観ます。一四時になると着換えてからトレーニングです。スポーツジムにはいくつかのメニューがあります。その中の一つのメニューを、Aさんは休憩を取りながら九十分をかけて体を動かしています。初めのうちはトレーナーの方がずっとそばについて指導をしてくれていましたが、今では一人で一連の流れを判で押したようにこなしています。Aさんは九十分経つと必ず体重計に乗ります。少しでも体重が減っていると、スタッフの方を呼び「今日もがんばりました。」と報告します。近頃は、体重が減らなくなってきたので、その報告の機会は少なくなりましたが、。トレーニングの後はまたロビーで休憩です。顔見知りの人も何人かいて、話しかけられることも増えました。Aさんは新聞を広げて、スポーツの話をするがあります。「カーブは優勝できないですか?」「○○の(選手名)調子が悪いですね。」などと言っています。「そうだね、どうすればいいかねえ。」などと答えてもらえると、「うーん、難しいですねえ。」とうれしそうに言っています。

以前は一六時には体育館を出て、三十分後には家に帰っていたのですが、大相撲を観てから帰るなど遅くなることも増えてきました。少々遅くなっても携帯電話があるから大丈夫です。お母さんが電話をすると、どこにいるかは告げてくれます。そのうち、「今晩は遅くなるから、先に食べて。」なんて電話するようになるのではないのでしょうか。



○水曜日 この日の朝は八時三〇分に近くのショッピングセンターに行きます。従業員用の出入り口で、まずヘルパーさんと待ち合わせです。ここの清掃業務の仕事を見習いとしてやらせてもらっています。昨年の四月から始めましたので、もう一年半になります。幼稚園や保育所では上手にできている清掃の仕事ですが、なかなか本当の仕事となると難しいようです。予想以上に様々な種類の業務内容でし、ある程度の種類に対応できるまでは、ヘルパーさんとペアで仕事をやってもらった方が良さそうです。店の中の商品が気になることも少なくなく、お客さんをじっと見ていることもまだまだ多く、やるべき手の動きが頻繁に止まってしまうのです。

作業の手順についても、カードを作って示していますが、そのカードをうっかりと一つ、二つとばして次に進んでしまい、ミスにつながります。じつくりとやっていく必要はありそうです。

休憩を十五分はさんで、一二時までこの仕事を頑張っています。それから一度帰宅します。今日は泊まりの日なので、昼食後に宿泊の準備をして一三時三〇分に家を出ます。



Aさんのお母さんは、障害を持つ子の親たちの会にはあまり参加してきませんでしたが、たまにAさんが小・中学生の頃に参加した夏休みの親子キャンプとかを通じて知り合った「親」たちの中で、仲良くなった方同士、四大家族で、二年前にアパートを借りました。一ヶ月二、五〇〇円を出し合い、市郊外に四三、〇〇〇円の2Kのアパートを借りています。家賃以外では、雑貨や調理用品などを少しずつ買い足しています。

このアパートをAさんは、「自立ホーム」の役割として使っています。将来は、グループホームか一人住まいができるように、家事の経験を積む場として使っているわけです。Aさんの他の人は、日中ヘルパーさんとのんびり過ごす場として使っている人もいますし、一時保護的な場として利用している人もいますし、時には夫婦ゲンカ後に頭を冷やす場として親御さんが使ったり、談話室として使ったりすることもあるそうです。このアパートをAさんたちは「風の別荘」と呼んでいます。川沿いにあり、窓を開けるとよく風が通る部屋だからです。

水曜の午後から木曜の午前中までを、Aさんは毎週「風の別荘」で過ごします。Aさんのお母さんは改めて、Aさんに家事をやらせてこなかったことを振り返っています。一五時前に別荘に到着すると、ヘルパーさんが先に中に入って待っています。「おかえり！」と言ってくれます。まずは今晚の献立から開始です。料理の本も何冊かそろってきましてので、その本をみながらおいしいそうメニューを探します。初めのうち



は、カレーライスとか、焼そばとか、いくつかメニューをしばっていたのですが、「おいしいそう！」とか「食べたい！」というメニューに、とにかく挑戦することにしていきます。ですから、ヘルパーさんにとつても大変なメニューに取り組むことになることがあります。食材費は少々かかっても、それも一つの勉強となるのではないかとAさんのお母さんは考えています。メニューが決まったら、買い物です。近くのスーパーには、一人で買いに行けるようになりました。買うものを書いたメモを、手にして、どこに売られているかわからない時は、店員さんに尋ねることもできるようになりました。時々失敗もします。塩や砂糖など、大袋の物を買ったり、読めない漢字を書き写したため、「うしの小さいかたなを下さい！」と言ひ(牛肉の小間切れ、切をかたなど読んだみたいです)。店員さんを困らせたりしたことがあるようです。Aさんの買い物の間、ヘルパーさんには台所を中心に清掃と整理をやってもらっています。レシピづくりをやってもらうこともありますし、パソコンで今日のメニューを出してもらっておくこともあります。料理本のレシピのところ、特に作り方の手順の写真を中心に、拡大コピーをしてもらっておくこともあります。できるだけ声をかけずに、Aさんに考えてもらえるような工夫をしてもらっています。でも、あまりヘルパーさんに注文をつけるとやりにくいでしょうから、「少しずつできるよにならばいいし、少しでも料理することが好きになつてもらえれば良いので、のんびりとヘルパーさん自身を楽しんで下さい。」と伝えていきます。



この水、木曜日のAさんの「風の別荘」での暮らしに、近くの居宅支援事業所から、四人のヘルパーさんが交代で来てもらっていますが、「ここに来るのは楽しい！」と言ってくれます。「Aさんと出会えて本当に良かった！」と言ってくれる方もいますし、四人のうち男性のヘルパーさんが一人いるのですが、定年退職して資格を取った方です。その方は「いい仕事に就くことができて良かった。Aさんは私の恩師じゃ。もつと一緒にいる時間が持たたい。」と言ってくれています。何とも有難い話です。

一八時〜一八時半ごろに夕食ができ上がり、ヘルパーさんと一緒に食事をします。食べた後は、就寝までにやることについて、ヘルパーさんが確認をします。Aさんは、大体はできるようになっているのですが、ガス栓の閉め忘れ、寒くなったのに夏布団だけ寝ること、エアコンの使い方、歯みがきなど、やはり一つ一つこちらが気を付けておかないと、対応できないことや、臨機応変さに欠ける面が多々あります。その一つ一つを文字のカードで示し、できたら裏返していくことにしています。確認というのはそのカードを一つずつ読んで、気を付けてほしいことを説明することです。Aさんは「ハイ、ハイ。」と二度返事をしながら、ヘルパーさんの話を聞いています。

一九時〜一九時半にヘルパーさんは帰り、Aさんは食器洗い、入浴、等を済ませ、二二時くらいに就寝しているようです。(TVを観ているので、もつと遅い時もあるのですが、Aさんは、「早くねます!」と言っているので信じることにしています。)





○木曜日 朝起きて布団を片付け、洗顔、着換えをAさんは一人でできるようにしました。朝食はレンジでチンして食べるように、ヘルパーさんが先日準備してくれています

九時半にヘルパーさんが来てくれます。Aさんがしっかりと昨夜から過ごせていたかを見てもらい、食器洗いの不十分なところなど、気を付けるところが見つかったら、注意してもらっています。それからはこのところアイロンかけの練習です。家から二、三枚、お父さんのYシャツなど持参しており、時間をかけてヘルパーさんと一緒にアイロンの使い方を教えてもらっています。

その後は弁当づくり。冷凍ものと、ウインナーと卵焼きと中味は決まっています。

弁当を持って一、二時三〇分に別荘を出て、行き着く先は、公立のR保育所です。昨年の十一月から行っています。「風の別荘」の近くで、少しずつ行ける所を増やしてみようかと話し合い、何とか一ヶ所受け入れてくれる所が一つできました。公立ですから、今の園長先生が転勤されたら、行けなくなるかも知れませんが、まずは事務所で弁当を食べさせてもらい、それから園内の清掃です。ここの保育園では、お昼過ぎに園の清掃のために働いている方が来園しており、Aさんには始めの頃、その人の補佐してもらっています。しかし、どうも馬が合わないようで、清掃のためのスタッフはイライラし、Aさんはポウツとするこ

とが多くなり、別々で作業してもらうことになりました。高い位置の窓拭きや力仕事を中心にやってもらっています。P保育園での砂山づくりについて伝えると、R保育所でも、Aさんに砂山づくりを頼んでくれるようになります。

一五時三〇分に終了し、一時間かけて帰宅します。泊まりの荷物を持っていますので、旅行から帰ったかのような格好です。

○金曜日 午前中はパソコン教室に出かけています。大型電気店が実施している教室で、初級者コース(三ヶ月コース)に参加しています。この教室には高校を卒業してから、ずっと毎週一回参加しています。即ち、初級者コースをもう、二十回程参加していることになりました。

☆
今では、他の受講生よりAさんの方がずっと上手なところもあり、講師の方も、Aさんに「隣の人に教えてあげて」と頼むことがあります。

同じコースに二十回も通って良かったことは、その店の多くのスタッフがAさんに挨拶をしてくれるようになったこと、講師の方がAさんの興味・関心事を理解できるようになり、Aさんが喜ぶサイトに入ってくれ、その操作・楽しみ方を教えてくれること、ワードを使うときのAさんの弱点・くせを知り、根気良く教えてくれること、などがあげられます。Aさんにとっては、この教室は大学に通うようなものです。しかも、教室が終わってから、スタッフの方と昼食をとるようにになりました。課外授業付きですから、お得な

教室です。

一三時に店を出て、午後Aさんが行くのはインターネットカフェです。行きつけのカフェは、シヨッピングセンターに隣接し、百人以上のお客が入れるような大きなお店です。午前の教室で教えてもらったAさんの関心のあるホームページや、ゲームのサイトなどを開いて楽しんでいきます。ソフトドリンクは飲み放題なのですが、好きなコーラは一杯だけ、あとはお茶を飲むだけにしています。ジュースの飲み過ぎは、デブの素と考えているからです。

○土曜日 体力づくりの日のような一日です。午前中はスポーツセンターの温水プールに通っています。まずウォーキングから始まり、泳ぎの方はまだ息つきが苦手なので、クロールと犬かきとバタフライをミックスしたような泳ぎ方で十、十五m進んでは立つことを繰り返していくことを行い、ウォーキングを入ると二五mプールを六十、八十往復しています。

プールの後はお寺と神社巡りです。ちよつと遠いのですが、歩いて四kmくらいの道のりの所にあるお寺に行き、その近くの社会福祉センターのロビーで昼食をとり、食後はまた歩いて一kmくらいの所にある神社にお参りし、さらにその近くのお寺に寄って(Aさん家のお墓があります。)墓参りとお墓そうじをしています。さらにすごいことには夕方からは空手を習いに言っています。中学の頃から行っていますので、もう十年以上は通ったことになります。Aさんの空手の型が見たくて、何度もやってみるよう頼んでいるの





ですが、まだやってくれません。Aさんは、以前その空手の道場に來ていた年上の人を好きになったことがあります。「告ろうと(告白しようよ) 思います。」と何度も言われたことがあります。どんな人?どこに住んでいる人?どんなことが趣味なの?と尋ねても「知りません。」と答えるばかり。その人と一緒にどこかに行きたい?話がしたい?手をつなぎたい?と尋ねても「わかりません。」と答えるばかり。どうも彼女、という存在を作りたい様子でした。また「彼女」は、Aさんの気持ちを受け止めてくれる人と感じていたようです。制止をきかずに、見事に(?)告白してふられてしまいました。一度断られてもピンと来ずに三回も告白してみたいです。その経験は、彼を大きくしたと感じています。家事をすること、仕事をしてお金をもらいたいということに対して、ふられてから意欲が高まったように思います。何せ、近頃Aさんからは、「ぼくは一生独身です。」という言葉が時々出てきます。そういう言葉を発するようになるのは、微塵も考えたことなかった御両親は、むしろ「一生独身」宣言を嬉しく思っているようです。

この空手道場は、年に二回、先生と生徒が集まって茶話会を開いています。(何人かの大人の人はビールを片手に...)とてもにぎやかな会なのですが、この会話をAさんはよくしてくれます。とても楽しみにしているようです。

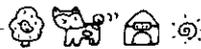
土曜日の帰りは一九時近くです。一日中、体を動かしても平気ですから、このAさんのパワーはぜひとも活かしたいものです。



○日曜日(このところの日曜日の過ごし方としては、午前中は、Q幼稚園に行き、教会のミサに参加しています。もちろん教会周辺の清掃に始まり、礼拝堂のおそうじにも励んでいます。

考えてみれば、P保育園はお寺が基盤となつています。Aさんは神社にもお参りに定期的に行つていまして、Aさんの話には仏様から神様からイエス様まで、Aさんの話にはいろいろな教えが出てきます。様々な壁、垣根を取り除いていく卓越した信者としての、AさんのAさんらしい姿だと私は感じています。P保育園の園長先生はAさんに、「おい、仏様と教会の神様とどっちを信じるか?」と、何度か聞いたことがありますが、Aさんは困つて何も答えなかつたのですが、今は「どっちも信じます!」ときっぱり答えています。

日曜日の午後は、家で過ごしてもらっています。たまにはお父さんやお母さんの相手をしてあげないと寂しいようです。お父さんは、金曜日の夜ぐらいいから「日曜日はどこ行くか?」「映画でも行くか?」「スーパー銭湯に行くか?」とAさんに話しかけます。近頃はAさんが「つかれるからいい。お父さん一人で行つて下さい。」と言つてお父さんは必死になつて、Aさんが喜ぶ所を捜しているようです。もうAさんは親離れができてきているようですから、あとは御両親の子離れ次第で、Aさんの自立した地域生活は始めていけそうです。



大まかですが、Aさんの一週間を紹介しました。結局のところAさんがヘルパーを利用して居るのは水曜日の午前中のショッピングセンターでの清掃作業の三時間半と、午後の「風の別荘」での四時間半と翌日の午前の二時間の計十時間で、一ヶ月四十〜五十hとなつています。

習い事などお金がかかっているのは、パソコン教室と空手くらいです。収入もあるのです!P保育園は謝礼として一回につき千円いただけるようになり、そのお金でカフェに行つています。

「風の別荘」代として¥二、五〇〇払つていましてヘルパーさんの自己負担金、習い事と合わせる、月に四万〜五万のお金がかかっています。全てAさんの年金の範囲で済んでいますし、食費はまだ両親にまかされてもらつていますので、余つたお金は貯金しています。一応、マンションを購入するという目標を持っています。いつになったらマンションでの一人住まいとなるのでしょうか。決して夢ではなくなつてきた現実、御両親はとまどいと期待の気持ちの中で、Aさんが家を出て行くタイミングを考えるようになってきました!

今回は知的に重いハンディを持つ人の一週間に ついてご紹介します。お楽しみに(?!)





瀬野キャンパスからのお知らせ

○生活能力訓練

高校生以上の方と、その保護者の方を対象とした「生活能力訓練」を以下の要領で実施いたします。お子様は施設内に宿泊し、作業実習及び生活訓練を行います。保護者の方は学習会や相談会に参加していただきます。

期 日 二月十六日(木)～十八日(土)
場 所 瀬野柏の実苑

募集定員 三組

※生活能力訓練のお申し込みは、左記までご連絡ください。

瀬野柏の実苑 TEL 082-894-8958

(担当 柄)

○親子のレクリエーション



春を迎え、親子で参加し、楽しい一日が過ごせるよう、レクリエーションを考えています。今回初めての試みなので、皆さん楽しみにしておいて下さい。

日 時 三月十九日(日) 午前十時～午後三時
場 所 瀬野川学園(工作等)

午後 瀬野川公園(スポーツゲーム)

参加費 未定(材料費十弁当代)

募集定員 十家族限定

※別紙の申込み用紙にご記入の上、お申込み下さい。



○コンパス

小学生から大人の方までの、地域での生活支援にしている相談会(コンパス)を行ないます。

場 所 安芸区民文化センター

日 時 一月十一日(水) 二月二十二日(水)

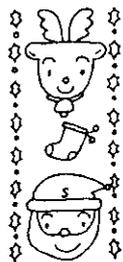
時間は午前十時～午後三時

※この様な相談でも、お話だけでも伺いますので、お気軽にお寄り下さい。なお、予約が必要ですので左記までご連絡ください。

瀬野川学園 TEL 082-894-8958

(担当 柄)

募集ボランティアさん



☆親子のレクリエーション

三月十九日(日)

地域の方と一緒にレクリエーションや、お手伝いをして下さるボランティアさんを募集しています。

お申し込みは、瀬野川学園(柄)までお願いします。

TEL 082-894-8958



柏学園からのお知らせ

★サタデーチャット(就学児相談グループ改め)

- ☆一月七日(土)・一年生グループ
 - ☆二月四日(土)・二～四年生グループ
 - ☆三月四日(土)・五、六年生グループ
- 十四時から十六時までとなります。

相談グループ改め、「サタデーチャット」では、参加された皆様と当園スタッフが情報や意見の交換をしています。「別に何の話も無いんだけど」とか、「久しぶりに柏のスタッフにも会いたいなあ」とか、動機は何でもオッケーです。お気軽に参加してください。また、お子さんは別室でスタッフと過ごしますので、「一緒に」来園下さい。

※参加希望の方は前日までにお電話ください!

編集後記

今年もいよいよあと数日となり、慌しい毎を送られているのではないのでしょうか。今回のやまびこはスペシャル版として、金丸コーディネーターの原稿もいつもより長編となりました。ごたごたの中でお読みくしながらボンヤリ読んでいただけると嬉しいです。それではみなさま、良いお年をー

